

上士建設第5074号

平成20年10月8日

国土交通省道路局長 様

北海道河東郡上士幌町長 竹 中



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

日頃より道路行政の推進にご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号によりご依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

本町における国道及び道道の役割は動脈と静脈であり、市町村道は末端まで繋げる毛細血管であります。国道や都道府県道路が整備され適正に管理をして頂く事が、市町村道路整備の基本的事項と考えております。その観点から、国道や都道府県道路の整備が今後においても必要であり、時代に即応した国道等の整備や管理が市町村の道路整備の目標でもあります。

本町には国道が3本（241号・273号・274号）あり、中核都市へのアクセスは、鉄路の廃止により公共交通はバスが担っていることから、国道は地域住民の生活にとって大変に重要となっております。また、高速道路ネットワークが進む中で本町からの連絡網の整備も必要であります。

本町は、自立に向けたまちづくりのため、地域産業の推進、企業誘致や定住・移住の促進、自然環境を生かした観光客誘致など多くの取り組みを推進しております。国道は、生活道路や農林産物等の輸送等多くの使命がありますが、まちづくりと連動し地域事情にあったきめ細かい道路政策を、尚一層の維持管理・整備を強く希望するところであります。

とりわけ、冬季間の除雪は、生活する地域住民にとって大変重要で、救急対応など命に関わるものであり、更に観光客を含めた交通事故防止の観点からもその役割は大きいものであります。また、防災という観点からは、災害が発生して不通になると生活物資の供給などが分断されてしまう恐れがあり、早期の改善が求められています。

本町の認定町道は、344路線で延長422km・舗装が49km・簡易舗装157kmであります。さらに整備が必要ですが、財政等の理由により修繕さえ追いつかないのが現状であり、橋梁の補修や延命事業も進まない実態にあります。

農業機械や運送車両等の大型化により整備時点の構造が利用実態に合わない為に、傷みが酷く、交通事故発生が危惧されます。このことから、実態にあう町道の再整備事業の創設と助成について切にお願いいたします。町道の中でも、国道や道道とのアクセス道路は、特に傷みが激しく、地域間のアクセス道路を含めた町道の一体的な整備事業の新設、更には地域にあった施設整備の助成事業についても、地域支援の観点でご検討頂きたいと思っております。

今般の中期計画見直しにあたり、事業効果（利用率）という視点は理解しつつも、本町を含めて広大な面積を有する北海道においては、道路延長に比して人口密度が低くなってしまうことは必然であり、都市への投資が集中してしまうのではないかと危惧しております。例えば、平成17年道路交通センサスでは「昼間12時間交通量休日平日交通量比」で国道273号本町十勝三股地点が全国第3位となっており、観光客などの利用者が大変多いと思われる結果が出ております。是非、このような点も含め、過疎地域であります、日本の食糧基地となっている農業地帯でもあり、産業の振興や生活の安心・安全のために、事業効果の算定にあたっては十分に配慮されるよう、要望するものです。

今後の道路行政につきましては、地域の事情に即した整備を中期計画に反映いただき、地域の発展につながるものにして頂くようお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道上士幌町

○現状

- 本町には国道241号(274号)と273号の3本の国道が縦横断していることから、十勝圏における道北、道東との広域ネットワークの重要な拠点としての整備が求められています。特に国道273号は、物流関係車両や大型観光バスなどの交通量が増加していることから、引き続き安全性に配慮した整備が必要となっています。
- また、殆どが改良舗装整備されていますが、さらに既存路線の整備とともに、本町の産業にとって重要な幹線道路であるため、拡幅整備や交通安全施設の整備が必要です。特に、国道は、物流関係車両や大型観光バス等の交通量が増加していることから、市街地区間の交差点部、歩道部等の交通安全施設整備が必要である。
- 最近の道路交通の需要もいろいろな面で変化しています。高性能車両や大型車両をはじめ女性や高齢者ドライバーの増加、更に、夜間や週末レジャーに伴う交通量の増加など道路の利用スタイルが変化してきています。今後の道路整備に当たっては、これらの変化に対する利用者ニーズを踏まえて、「安全」「円滑」「快適」を基本として整備を行う必要があります。
- 観光の面では、1町だけでなく広域的な面での対応が必要となっています。団体旅行から個人旅行への志向が高まっており、レンタカーなどを利用して、自由に移動して魅力ある観光地に移動する方々が増えています。地域間の連携を図るシーニックバイウェイや高速道路を利用するときの目的地となる魅力ある観光資源のPRが重要になっています。

○課題

1. 幹線道路の整備
 - (1) 国道の整備
 - 国道273号上士幌市街地の拡幅整備
 - 観光地における案内板・駐車帯の整備
 - 国道241号の国道沿線修景整備
 - (2) 道道の整備
 - 道道士幌上士幌線の拡幅整備や交通安全施設等の整備
 - 道道の道路環境整備
 - 道道への区域変更・昇格運動の推進
 - (3) 幹線町道の整備
 - 大型車両の交通確保、冬期交通の安全確保、歩行者の安全確保など幹線道路整備
 - 国道から中心市街地へのアクセス道路の整備
2. 生活道路の整備
 - 公共施設及び中心市街地へのアクセス道路の整備
 - 団地内の防じん舗装整備及び団地内幹線道路の再整備
3. 道路環境の整備
 - (1) 安全で人にやさしい道路整備
 - 身体障害者や高齢者などの視点に立って、幅の広い歩道、段差の適切な切り下げ、歩道上の電柱除去など、安全で快適な道路整備
 - (2) 安全で快適な冬道の確保
 - 冬期間における町道の交通を確保し、住民が安全で快適な冬を過ごせるよう、速やかな除排雪体制の確保
 - (3) うるおいのある道路環境の整備
 - 並木の植栽や花壇の設置など、安らぎとうるおいが感じられる道づくりの推進

平成 14 年 3 月策定 第 4 期上士幌町総合計画（2002-2011）

1. まちづくりの基本目標

本町の新しいまちづくりは、「豊かな自然と恵まれた環境を守り育てることを基本とし、大地に根づいた地場産業を発展させ、生涯学習の理念により町民と行政の協働による元気なまちづくりを進めていく」ことをめざします。

このような新しいまちづくりを進めるための基本目標（まちづくりテーマ）を「人が輝き 町が輝く 北の元気まち」に設定します。

《その意味合い》

豊かな自然環境の中で積極的に学び活動する「輝く人」を育て、町民と行政の協働で「まちを輝かせ」、産業が育ち、人が集まり、誰もが住み続けたいとなる「元気なまち」をつくります。

2. 基本目標が示す将来の姿

■地 域 像

豊かな自然を守り、育て、多くの資源を生かしたまちづくりが進められ、緑があふれ、活気に満ちた地域に成長しています。

■産 業 像

大地に根づいた農林業に加え、豊かな自然や資源を生かした観光産業が発展し、地場商工業との連携による産業振興と若者の雇用の場が確保されています。

■生 活 像

北国の快適な居住環境がつけられ、災害に強く事故や犯罪のない、町民が安心して暮らせる生活環境が整備されています。

■しあわせ像

町民相互がささえあい、いたわりあって、だれもが健康で幸せを感じることのできる福祉環境がつけられています。

■人づくり像

生涯学習の環境づくりが進み、心豊かでいきいきとした人が育ち、積極的に学び、行動する町民の輪が広がっています。

■活 動 像

町民と行政の情報の共有と協働によるまちづくりが定着し、町民による様々なまちづくり活動が活発に行われています。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道上士幌町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
☆安全・安心の確保	■国道 273 号黒石平の落石危険地の解消 仮に不通となった場合に、上士幌市街地と糠平温泉地区が分断されることにより、生活物資の補給が困難になる。また、観光地として経済的な影響は甚大となることから、早期の解消が望まれる。 ■冬期道路交通ネットワークの確保 総合・専門病院から 30Km 以上離れている本町は、幹線道路の通行は命に関わる問題である。また、通勤・通学バスに支障がでることから、ネットワーク確保は重要である。	■左記の不安が解消される。 ■左記の不安解消。都市と農村の交流は国を挙げて取り組んでおり、移住・二地域居住事業を進めている本町にとって、冬場の生活も交通網の点では支障が少ないというプロモーション活動を促進できる。	
☆道路政策の進め方	■多様な主体との連携 ・シーニックバイウエイの推進 ・観光拠点への案内板・駐車帯などの整備	■シーニックバイウエイにより、広域的な景観整備とともに、観光客の誘致に取り組んでいる。また、地域資源たる景勝地や観光地への散策路整備を町が行い、案内板等は国が行うような連携を図ることにより、交流人口の増につながる。	
☆高速道路ネットワークの有効活用・機能強化	■高速ネットワークの整備を見据えた広域的な観光客誘致	■北十勝4町では2011年の道東道の開通に向けて、札幌圏へのプロモーション活動に取り組んでいる。広域的な観光ネットワークを構築するとともに、各地域の経済活動を活発化させるものとする。	